

政 策 学 部  
完 成 報 告 書

2010年7月30日  
同 志 社 大 学

## 1. 教育目標

政策学部では、学生に社会科学に関する幅広い知識を吸収させ、その知識にもとづき総合的な観点から現代社会の問題、グローバルな政策課題を発見・理解させるとともに、その解決に取り組むことができる人材の育成を教育の基本的な目標としている。同時に、学生自身の関心や学びのモチベーションを重視して、公共政策、企業政策、国際政策などを総合的に学習できるカリキュラムを編成し、実践的な問題発見・解決能力の養成に努めている。

現代社会のグローバル化や情報化の進展、あるいは先進諸国における高齢化社会の到来にともなって、そこで発生する問題も複雑化し多様化しているためであり、また現代社会が求める高度な問題発見・解決能力を養成するには、個別の学問分野にとどまらず、社会諸科学相互の連携による学際的な教育研究が必要とされるからである。

## 2. 学部の水準による評価

### (1) 科目配置

政策学部は、同志社大学の建学の精神である「良心教育」や、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」という教育理念に基づいた全学共通教養教育科目、免許・資格関係科目としての自由科目、そして政策学部専門科目を設置している。

#### ①全学共通教養教育科目

**全学共通教養教育科目**は、建学の精神と教育理念を会得し、総合的な観点から現代社会の問題を発見し理解する資質の涵養をめざしている。これは同志社大学のリベラル・アーツ教育の伝統を反映したものである。

#### ②オリエンテーション科目

学生自身の関心や学びのモチベーションを高めるため、そして学士課程教育への円滑な移行をはかるため、**オリエンテーション科目**を第1 Semester（1年次春学期）に配当している。1クラス約15人程度の少人数編成でクラス担任制を敷く「**First Year Experience**」では、大学での勉学の意味と意義を学ばせ、個別の履修指導、進級指導を組織的に行っている。また、同時並行的に政策学入門を開講し、政策学そのものの導入教育も行っている。

#### ③基礎能力養成科目

第2 Semester（1年次秋学期）、第3 Semester（2年次春学期）においては、基礎能力養成科目としてアカデミック・スキル1（読解・分析）、アカデミック・スキル2（構想・伝達）の2つの少人数科目を置いている。ここでは演習形式、個別指導方式により、大学で学ぶ上で必要な勉学の方法と道筋を学生に考えさせ、実践的な問題発見・解決能力の養成に努めている。

とりわけアカデミック・スキル2（構想・伝達）では、地域住民との交流や学生同士の学びあいを通じた学生の研究意欲高揚を目指してPBL教育を導入している。

#### ④講義科目の種類

講義科目は第1 Semesterから第8 Semesterまで、**基礎科目**→**導入科目**→**展開科目**と系統立てて配当している。特定分野に深く導くのではなく、学際的教育を標榜する政策学部の理念を鑑みて、さまざまな学問分野をバランスよく、またそれぞれの難度にしたがって履修できるように配慮している。さらには、大学院総合政策科学研究科との連携科目群として、政策特殊講義Ⅰ、政策特殊講義Ⅱを設置しており、さらなる勉学意欲を持つ学生に配慮している。

#### ⑤政策レファレンス

学生はさまざまな学問分野に関わる科目群を見て困惑することがある。広範な政策領域の中から自らの興味関心を見極める指針とするために、**政策レファレンス**を編成している。「国際貢献を考える」、「地域連携を考える」、「人権を考える」、「キャリア形成を考える」など9種類のテーマを設定し、そのテーマについて学びたい場合にはどのような科目を計画的に履修するべきかを明示している。学生だけではなく、高校生にも好評である。

#### ⑥卒業研究プロジェクト

政策学部のカリキュラムの特色の一つは、**卒業研究プロジェクト**である。2年秋学期の第4 Semesterから最終の第8 Semesterまで、演習科目（演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、卒業研究演習Ⅰ、卒業研究演習Ⅱ）を配置し、卒業論文を執筆させることで研究能力の完成をみる学修プロセスになっている。

その間、必要に応じてフィールド・リサーチ、プロジェクト演習（関心のある研究テーマに応じてもう一つの演習に所属する）、リサーチ・ペーパー（調査報告書）を科目履修することにより、卒業研究で必要となる現場での調査、自身の主たる専攻とは異なる政策領域についての演習形式での学修を可能にしている。以上のとおり、学生に意欲があれば、いろいろな科目を、さまざまな形態で履修できるように配慮している。

### (2)履修に当たって設定した条件と形式

政策学部が履修に当たって配慮したポイントとシステムを以下に列挙する。

- ①卒業必要単位は 124 単位である。また、各年次において予習や復習、教員への質問、図書館での参考文献検索など、授業時間外における充実した学修環境を醸成するため、1年間に履修登録できる単位数は1年次 40 単位、2年次 44 単位、3年次 46 単位、4年次 46 単位としている。
- ②本学では、統一的な項目を用いた学生による授業評価を実施しており、政策学部では全教員にその結果を教授会でフィードバックしている。また、成績評価に関して学生から質問を受け付ける体制や、受講している科目の授業内容・方法に関する改善の要望を受け付けるクレームコミッティ制度を設けており、本学部ではその内容、課題について教授会で報告している。

- ③授業計画、到達目標、テキスト・参考文献、成績評価基準について、大学統一の書式で明示したシラバスをインターネット上で公表しており、学生がいつでも、どこでも参照可能な環境を構築している。
- ④学生とその父母等に対するアカウンタビリティの観点から、大学全体で教員自身による授業講評を行っており、試験問題の出題意図、正解率、今後勉学すべきもの・関連テーマの内容などをまとめている。また、全科目成績評価（得点分布）を集計し、これらをインターネット上で公表することによって大学教育の中身の透明性を高めている。
- ⑤本学は、インターネット上で学修を支援するシステム（D U E T）を構築している。学生は、このサイトを通じて上述のシラバス、授業評価アンケート調査、科目担当者による授業講評、成績評価（得点分布）等が参照でき、個々人の授業時間割、試験情報、成績の表示や履修登録手続きが可能となっている。さらには、授業担当者からの教材や家庭学修の指示も随時なされるため、学生のモチベーションとモラルを高めることにつながっている。

### (3) ファカルティ・デベロップメント

政策学部では、教務主任を委員長にするファカルティ・デベロップメント委員会（以下、「FD委員会」という。）を設置している。

FD委員会は、全学組織である教育開発センターの専門部会「FD支援部会」「教育効果向上部会」「大学院教育検討部会」と連携した組織的な取り組みによって、学部におけるファカルティ・デベロップメント、教育効果に関する諸課題を改善している。

また、新規に採用された教員に対しては、全学体制で同志社大学の教育目標をはじめ、本学の教員として教育・研究活動に従事する上で最低限理解しておくべき事項について理解を深める研修を行っており、教員としての資質向上及び政策学部の教育・研究の質の維持向上を図っている。

## 3. 卒業要件と卒業判定

(1)卒業要件は、「オリエンテーション科目」、「基礎能力養成科目」、「基礎科目」等から 20 単位以上履修することを含め選択科目Ⅰから 28 単位以上、「卒業研究プロジェクト」16 単位をコアにしている選択科目Ⅱを 64 単位以上、外国語教育科目を含む全学共通教養教育科目を 12 単位以上、合計 124 単位以上を履修することになっている。

入学時のオリエンテーション、その後の個別指導、初年次教育（少人数教育）において履修計画を作成するように指導するとともに、上級年次生に対しても卒業に必要な学修方法について指導する体制を整備している。

(2)卒業要件の審査は、学部長、教務主任、学生主任等を構成メンバーとする政策学部執行部による 1 次審査を経た後、教授会での承認を得て、学士（政策学）の学位授与を決定する。